

平成27年度 胎内市国語部 活動報告

部長 小室 秋子

1 研究主題

児童・生徒の国語力向上のための指導の在り方をさぐる

2 研究の概要

(1) 第1回部会 「事業計画の立案」 会場 築地小学校 16:00 ~ 参加者 21人

(2) 第2回部会 「講演会」 会場 築地小学校 9:30 ~ 参加者 17人

① 講演・演習

「児童・生徒の国語力向上のための指導の在り方を探る」～背骨の通った単元の計画を作ろう～

② 指導者 村上市立さんぼく南小学校 校長 長谷川 等 様

③ 概略

- ・ 指導の目的や重点の置き方が変われば読み方も変わる。評価規準の設定に当たっては、指導書だけでなく、他の資料も参考にするとよい。(⇒国立教育政策研究所)
- ・ 授業の骨組みとなる言語活動と具体的な児童の姿をイメージした評価規準をもって単元に取り組むとよい。
- ・ 目標・評価・指導が一体化となった指導計画の作成。

(3) 第3回部会 「授業研究会」

会場 胎内小学校 14:00 ~ 参加者 19人

① 授業者 高橋 成子 教諭 (胎内小学校)

② 単元名 食べ物のひみつを2年生に教えよう

(教材名) 「すがたをかえる大豆」(光村図書3年)

③ 目標

目的に適した事例を挙げながら、説明する文章を書くことができる。

④ 協議会の記録

- ・ 児童と一緒に学習計画を立て、学習後に相手を意識した説明文を書くことを明確にしたことで、児童が目的意識をもって学習に取り組むことができた。
- ・ 説明文のポイントや学習の足跡がとてもきれいにまとめられ整理した形で掲示されていた。そのため、児童は既習事項を生かして本時の学習に取り組むことができた。
- ・ 「できる」と「分かる」には隔たりがあり、「以後、常に引き出して使えるものにするまでの理解」につなげるためには、子どもたちの試行錯誤が必要である。
- ・ 事例を1つ書いたら交流させる。次に2つ目の事例を書いて交流させる、というようにスモールステップで進めていくとよい。
- ・ 「図や表の整理の仕方」は、加工法が分からない調べ初めの段階でいきなり使えるものではない。付箋方式を取り入れるとよいのではないかと。



4 成果と課題

(1) 成果

- ① 夏の研修会では、「単元を貫く言語活動を何にするか、そのために単元構成をどう組み立てていくか」などの具体的な話をいただくことができ、その後の指導に役だった。
- ② 秋の授業研究会では、公開授業を参観し、「主体的な学びを引き出す単元の導入」の視点に基づき、説明文の工夫について振りかえるとともに、学習課題を設定し、学習計画を立てるための手立ては有効であったか意見交流を行った。話し合いを通じて、学習のゴールを示し、相手意識・目的意識をもたせるにはどうしたらよいか、活動を通じて身に付けるべき学習内容はどのようにしていくとよいのかについて理解が深まった。

(2) 課題

今年度は、小中学校での実践の交流や紹介がなかった。今後は、スムーズな連携を図るという意味で、各校でどのような指導を行っているかなど、さらなる授業交流等の工夫が必要である。